

■□要旨■□

1. キャプテンとリーダーの違い

2015年ラグビーWCで日本が南アに勝利。監督はエディー・ジョーンズ氏(豪州人)、何がすごいのか。キャプテンの廣瀬選手が言った、「キャプテンとリーダーは違う」。エディー監督の練習は大変厳しく、上意下達。排斥論が出た時エディー監督が言った。俺を辞めさせて優しい日本の監督について勝てないか、俺についてきて結果を出すか、今すぐ決めろ。リーダーは破壊者、キャプテンは人格者。

2. Jリーグを発足させた川淵チェアマン

サッカーをプロ化しようとした1980年代後半。抵抗勢力から「時期尚早、前例がない」、と言われた。そういうことを言う人間は100年経っても、200年経っても同じ。やる気がない、誇りと責任を持ってない人間。「できない、ということをお口にしないな!」、川淵氏の言葉に背中に雷が走った。

3. リーダーに必要なこと

1. 「Passion」(情熱)。皆がついていく、フォロワーが出てくる。後ろを振り返るリーダーはダメ。
2. 「Mission」(崇高な大義)。スポーツが変われば地域が変わる、地域が変われば中央が変わる。
3. 「Action」(行動力)。率先垂範、陣頭指揮。皆がついていく。リーダーは評論家になるな。

4. 2割の賛成だからやる

Jリーグは成功するか?と川淵氏が聞いた時、二宮氏含めて10人中2人しか手を挙げなかった。川淵氏曰く、残り8人が手を挙げていたらやめていた。俺でなくても誰でも出来る、そんなのは仕事じゃない。リーダーは2割の賛成だからやる、そうでないと社内も面白くならない。

5. ルール作りに関われ

日本人が一番苦手なこと、それはルール作り。スポーツはルールを作ったものが風上に立てる。ルールを守る人ではなく、ルール作りにもっと関わるべし。ルール変化に対応するイノベーションが必要。

6. 昨日の成功体験は明日の失敗要因

1998年長野オリンピック。葛西選手は補欠で出場できず、いたたまれずに祝勝会を抜け出した。負けたことは認めた、でも負けたことに負け続けてはいけない。技術改良に乗り出し、レジェンドへ。「昨日の成功体験は明日の失敗要因」と言う葛西選手から学ぶことは多い。イノベーションの塊。

7. 野茂とイチロー

共にメジャーで成功した二人、でも最初はバカにされた。他の選手と何が違ったか?「志」がすごかった。スキルはWillを育てない、だがWillはスキルを育てる。二人とも仰木監督という共通の指導者がいた。仰木監督はまず才能を認め、「適材適所“適時”」で適切なタイミングでチャンスを与えた。

■□今回の学び ひとことという■□

リーダーは情熱を持ち、周囲を引っ張っていく大義と、行動力が求められる。そうしたリーダーに自然と周りについていくようになる。また、粘り強く部下の力量を見極め、才能を認め、タイミングよくチャンスを与える。そうした能力が上に立つ者には求められる。



■□感想■□様々なスポーツ選手を見てこられた二宮さんの言葉には、重みと、沢山の経験知が含まれていました。如何にして人の心を掴み、組織を牽引していくのか、その極意を聞くことが出来たとともに、スポーツ界におけるリーダーシップは、ビジネスの世界にも生かせることを改めて感じました。リーダーには、強い推進力と、折れない心、常に変化に対応するマインドが必要との思いを新たにしました次第です。